

台湾中南部における淡水プランクトン相 (1989年夏季)

富川 哲夫*

On the Freshwater Plankton of Central and Southern in Taiwan

(Summer, 1989)

Tetsuo Tomikawa

1. 緒言

筆者は1989年7月24日より8月3日まで、兵庫県生物学会主催、第2次台湾研修旅行に参加した。台湾における生物相は亜熱帯性生物を含む台湾独特の動植物が多く、今回は特に台湾中南部における植物相と昆虫相の調査と研修を兼ねて行い、多大の成果をあげることができた。筆者は淡水プランクトンを中心に台湾中南部で3か所にわたり採集することができたので、その結果を報告する。

報告をまとめるに当たり、クンショウモの同定には兵庫県生物学会常任理事 今津達夫氏の御教示を得た。また、この度の研修旅行について兵庫県生物学会常任理事 藤本義昭氏に大変お世話になった。ここに両氏に対し厚く御礼申し上げる。

また採集地点については図1に示した。

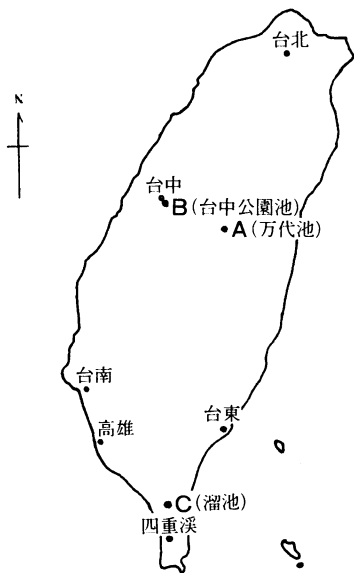


図1 台湾における採集地点

2. 採集方法

採集はプランクトンネットで行い、プランクトンネットは口径30cm、長さ50cm、網目は $X \times 13$ 、1目盛 $100 \mu m$ のものを用いた。採集方法はネットに10m程のロープを取り付け、水平引を繰り返して行った。また、採集地点については図1に示した。

3. 採集結果と考察

(1) A地点(万代湖) (写真1)

万代湖におけるプランクトンは表1および図2に示した。本湖は、海拔1100mの山岳部の河川をせき止め造った人造湖である。本湖に出現したプランクトンで最も多いのは原生動物の、イケツノオビムシ *Ceratium hirundinella* そのほか輪虫類のフクロワムシ *Asplanchna priodonta*、フトネズミワムシ *Trichocerca doxon nuttalli*、ハネウデワムシ *Polyarthra trigla* が多く見られた。このイケツノオビムシは、本邦では概ね貧栄養型の湖沼に夏季に大発生することから、本湖は貧栄養型から中栄養型の特徴をもつものと思われる。

(2) B地点(台中公園池) (写真2)

台中公園池から採集したプランクトンは表1および図2に示した。植物プランクトンでは緑藻類のヒトツノクンショウモ *Pediastrum simplex* var. *duodenarium* が大発生しており、その他わずかにハリケイソウ *Synedra acus*、イカダモ *Scenedesmus ellipsoideus* が出現している。動物プランクトンではオナガミジンコ *Diaphanosoma brachyrum* が極く少量出現したが、それ以外の動物プランクトンは認められなかった。

本邦において夏季クンショウモの発生する池は、一般に平地富栄養型湖沼に多い。台中公園池は市内にあるためか、水は汚れ、水の色は薄い緑色を呈している。本邦においてはヒトツノクンショウモは珍しい種である。本種の群体は通常8, 16, 32個の細胞からなり、内側の細胞にも突起をもち、細胞間に空隙をつくっているのが特徴である。

(3) C地点(四重溪)

四重溪で採集されたプランクトンは、タイホクケンミ

* 夙川学院高等学校・同短期大学

ジンコ *Thermocylopes taihokuensis* の大群集であった。他の動物プランクトンでは輪虫類のネズミワムシ *Trichocerca capcina* が極く少量みられた。タイホクケンミジンコの雌は体長 1.5mm, 雄で 1.0mm 前後である。外部形態は図 3 に示したごとく, 雌の貯精囊の形態が独特で, また, 胸部第 1 節と第 2 節を背面から観察すると明確な区分がない。

タイホクケンミジンコについては原田 (1931) が台北で採集しており, また, 水野・沈 (1984) の報告にもあるが, 今回, 台湾最南端の四重溪で本種の大群集を見たことは, この種は台湾において最も普遍的な種と思われる。

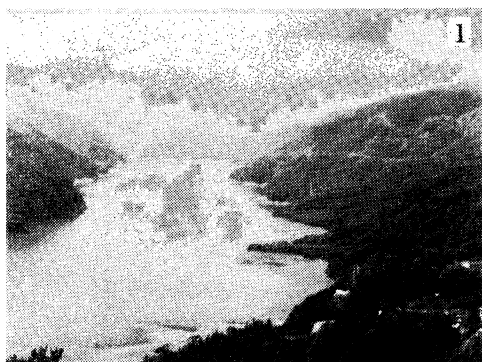
4. 要 約

筆者は兵庫県生物学会主催第 2 次台湾研修旅行に参加し (1989年 7月 24日～8月 3日) 台湾中, 南部における淡水プランクトンについて観察した。

台湾最南端の四重溪の溜池では, タイホクケンミジンコの大発生が観察された。従来の所見を合わせると, 本種は台湾において広範囲に分布するものと考えられる。台湾中部山岳 (海拔 1100m) の人工湖である万代湖ではイケツノオビムシの大発生が見られた。また, 台中市内にある台中公園池ではヒトツノクンショウモの大群落を観察された。

5. 引用文献

- (1) 原田五十吉. 1931. 台湾の淡水生物相の研究(4). 台湾の *Cyclopidae* について. 『動物学雑誌』 43(508・509・510), 226-236.
- (2) 水野壽彦. 1964. 『日本淡水プランクトン図鑑』 保育社, 1 - 351
- (3) 水野壽彦, 沈喜瑞. 1984. 『中国, 日本・淡水産橈脚類』, たから書房, 1 - 650 .



(写真 1) 万代湖



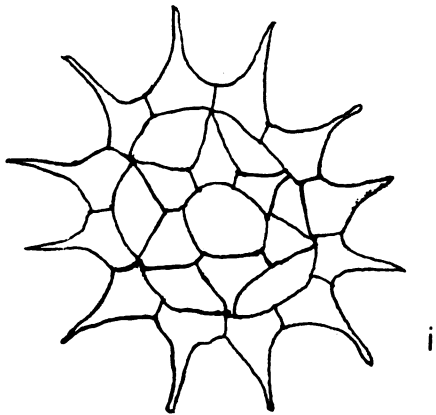
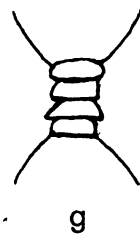
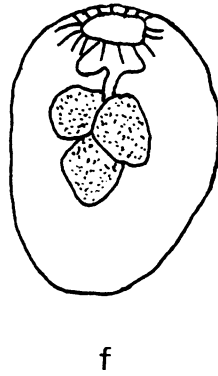
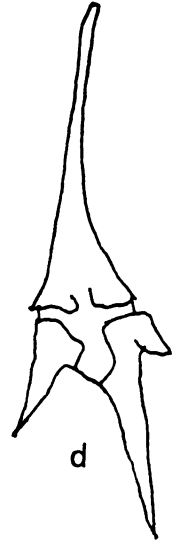
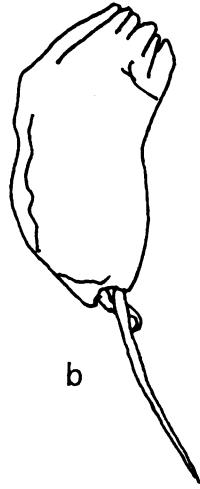
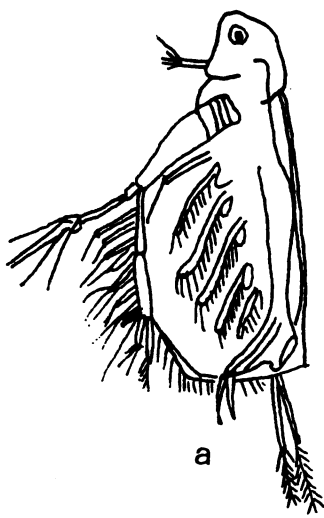
(写真 2) 台中公園池

表 1. 台湾産動植物プランクトン

採集地点	種 類	和 名	学 名	出現量*
A地点 万代湖	動物プランクトン 原生動物	イケツノオビムシ	<i>Ceratium hirundinella</i> O. F. MULLER	+
	輪虫類	フクロワムシ フトネズミワムシ ハネウデワムシ	<i>Asplanchna priodonta</i> GOSSE <i>Trichocerca dixon-nuttalli</i> (JENNINGS) <i>Polyarthra trigla</i> (EHRENBERG)	+ + +
B地点 台中公園池	動物プランクトン 枝角類	オナガミジンコ	<i>Diaphanosoma brachyrum</i> (LIEVIN)	R
	植物プランクトン 緑藻類	ヒトツノクンショウモ	<i>Pediastrum simplex</i> var. <i>duodenarium</i> (BAILEY) RABENHOST	CC +
	珪藻類	イカダモ ハリケイソウ	<i>Scenedesmus ellipsoideus</i> CHODAT <i>Synedra acus</i> KUTZING	+ R
C地点 四重溪	動物プランクトン 橈脚類 輪虫類	タイホクケンミジンコ ネズミワムシ	<i>Thermocylops taihokuensis</i> (HARADA) <i>Trichocerca capcina</i> (WIERZEJSKI et ZACHARIAS)	CC +

* 記号説明

CC 極めて多い, C 多い, + 普通, R 少ない



- a: オナガミジンコ
- b: フトネズミワムシ
- c: ネズミワムシ
- d: イケツノオビムシ
- e: ハネウデワムシ
- f: フクロワムシ
- g: イカダモ
- h: ハリケイソウ
- i: ヒトツクンショウモ

図2. 台湾産動植物プランクトン

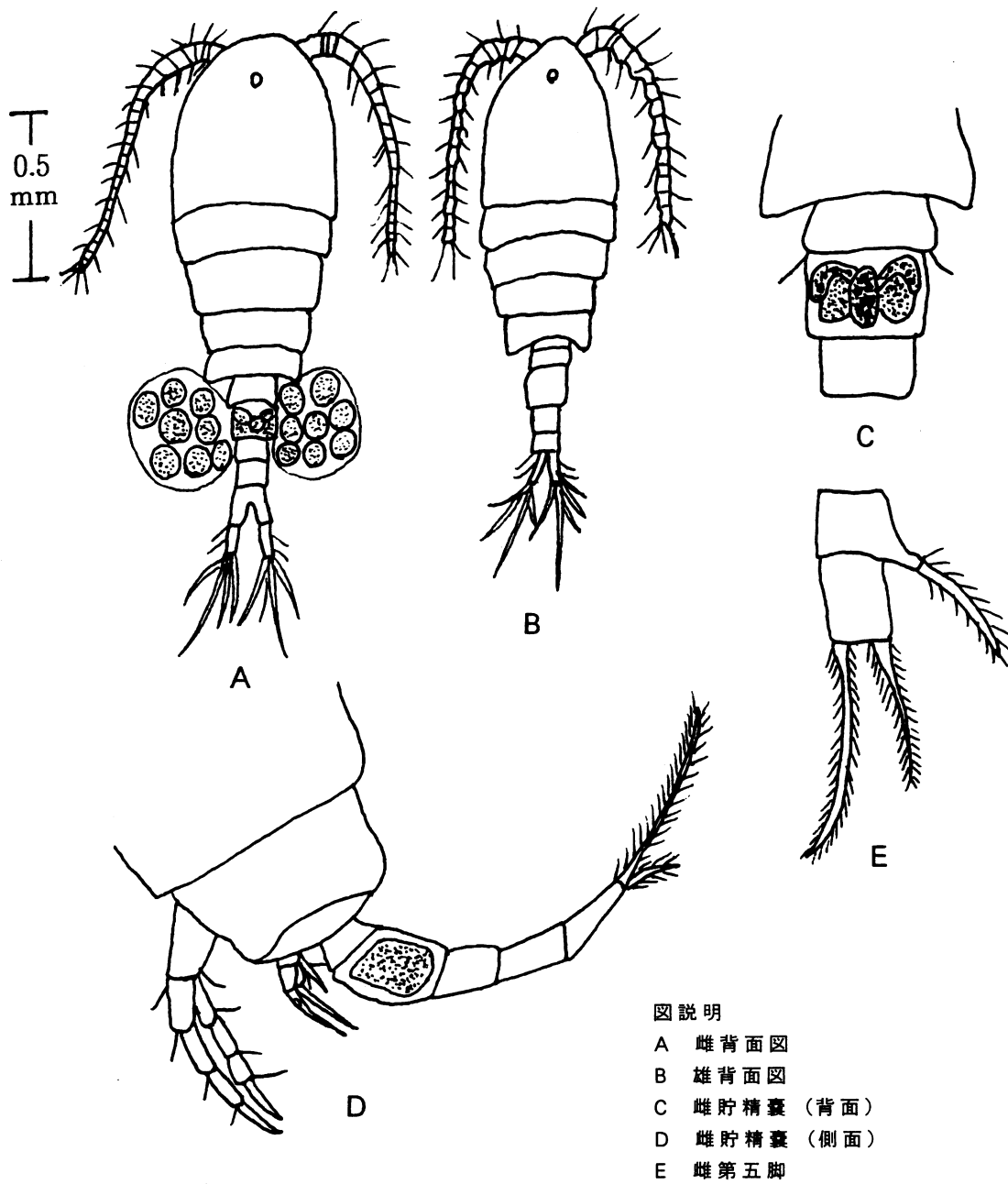


図3. タイホクケンミジンコの外部形態